

計画の基本的考え方について

1.本市を取り巻く社会状況

- 少子高齢化と人口減少
- 財政面、人員面の制約
- 価値観・ライフスタイルの多様化
- 自然環境問題
- H28熊本地震からの復興

2.本市の公園の状況

- 都市公園ストックの一定の蓄積（1,078箇所、712ha）
- 老朽化施設（遊具、トイレ、ベンチなど）の増加と対応
- 厳しい財政制約

3.都市の将来像

- 上質な生活都市
（市民が住み続けたい、だれもが住んでみたくなる、訪れたいまち）
- 多核連携型の都市構造
- 大規模地震等の災害に対するレジリエントなまちづくり

※レジリエント：変化に対処する能力
（社会の回復力、弾力性、復元力など）

【水前寺江津湖公園における課題】

限られた予算の中で、様々な課題に対応する必要がある。

- ① **環境保全**：水前寺江津湖公園の豊かな自然環境、文化資源を、いかに保全し、次の世代につなげていくか
- ② **利活用（魅力と質の向上）**：まちなかにあるオアシスとしてのポテンシャルを活かしきれていない（観光面含）
- ③ **維持管理**：いかに老朽化施設（トイレ、照明灯、ベンチ等）の更新等をしていくか

環境部会の基本的考え方（目指すべき方向性）

市民の憩いの空間として、誰もが訪れたことのある江津湖公園。しかしながら、施設老朽化で施設の更新が迫るとともに、生物多様性を含む環境問題など、多くの課題を抱える公園となっている。
生物多様性の保全とともに、江津湖の持つポテンシャルを最大限に発揮し、誰もが誇れる、上質な公園空間の創出を実現する。

キーワード（視点）

① 豊かな水環境の保全

② 生物多様性の保全

③ 歴史・文化の継承と活用

④ 感じ・憩い・学び・発信する場としくみの整備

① 豊かな水環境の保全

- 熊本地域における都市化の進展、土地利用の変化
- 長期的に見た湧水量の減少
- 地下水質の悪化（硝酸性窒素）

持続的な
地下水かん養対策

地下水質の
保全・改善

水循環に関する
理解と行動

② 生物多様性の保全

- 動植物の消失・減少（希少種を含む）
- エコトーンの減少
- 周辺の市街化
- 外来種の侵入・拡大
- 人の立ち入りによる生物への影響
- 江津湖に関する調査の不足（動植物の生育・生息状況、公園の利用状況など）

動植物の生育・生息場
の保全・復元

外来種の駆除
駆除方法の検討

自然と人との
共存・共生・配慮のあり方
⇒ソーシング

生物の長期的な
モニタリング調査

③ 歴史・文化の継承と活用

- 水前寺成趣園と江津湖の一体性が乏しい
- 旧砂取邸庭園や句碑等の保全と活用
- 庭園の管理

連続性・一体的活用
ストーリー性

歴史・文化遺産の
保全と活用

散策ルート
ガイドの整備

景観
コントロール

④ 感じ・憩い・学び・発信する場としくみの整備

- 自然、歴史、文化等に関する情報不足
- 江津湖の魅力や価値の発信不足
- 江津湖の自然・歴史・文化を継承する人材の育成

情報の集積

教材、環境教育
体験型プログラムの整備

価値の発信
魅力の発信

ビジターセンター等
の設置

担い手づくり
次世代への継承